

コ ン テ ン ツ	世界PM賢人会議（OLCI）開催される 第1回 PMS資格試験・・・252名が合格 PMS資格者による「P2Mクラブ」スタート 関西地区で初の「P2Mセミナー」開催される 日本計画行政学会でP2Mシンポジウム 経済産業省で「P2M研修」を実施 第2回 PMS講習会 受講生募集 会員企業紹介シリーズ・・・日本ユニシス(株)様	vol12 2002.11 PMCCニュースレター  特定非営利活動法人 プロジェクトマネジメント資格認定センター
-----------------------	---	---

P2Mの意義・・・経済産業省 後藤室長



経済産業省 後藤室長

P2Mの普及が順調に進んでいる。
次のような意義に注目しています。

▼「国際経済社会」への寄与。第
1に、高度な指針を提供すること
によりマネジメントにイノベーシ
ョンをもたらす、第2に、複合化

する課題（例：環境問題）を総合的にとらえる手法を与
える、第3に、利害が異なる国や組織間が対話を進める
ための枠組を提供する、第4に、知的活動を支えるイン
フラを提供する。

▼「我が国経済社会」としての意義。第1に、営利・非
営利を問わず、組織の運営を高度化させる、第2に、暗
黙知に頼りがちな国民性に対しマネジメント・マインド
を浸透させる契機になる、第3に、これらを通じ経済社
会システム全体の高度化を促す、第4に、国際ルールに
我が国の経営手法や価値観を反映させることによって競
争力の再構築に寄与する、第5に、枠組みを発信するこ
とで我が国の国際的なプレゼンスに寄与する。

▼「国内個人」のレベル。第1に、マネジメント人材の
能力を高める規範を提供する、第2に、同人材の能力を
評価する基準を提供する、第3に、同人材の雇用流動化
を促し効率的に活用（例：再活用）する、第4に、第3
により知的資産が有効活用される、第5に、教育のコン
テンツを提供することで人材育成に寄与する。

▼「PM自体」について。第1に、プログラムを対象と
することで世界のPM体系を第3世代に進め、実務への
活用性を広げた、第2に、足踏みしていたPM体系の国
際ハーモナイズの動きを再起動させた、第3に、第2を
通じて国際的なPMコミュニティを活性化させている。

これらは、関係者のこれまでの尽力に支えられている。
一方、時計は動き続けている。いまの取り組みがはるか先
の成果を決める。引き続きのご健闘を期待しています。

世界PM賢人会議（OLCI）開催される

第2回世界賢人会議 Operating Level Cooperation
Initiative（OLCI）/Japan会議が、10月26日（土）～29
日（火）の4日間、東京で開催されました。

OLCIは、シドニー工科大学 Lynn Crawford博士がリ
ーダーとなって、世界のプロジェクトマネジメント・リ
ーダー約40名が国際プロジェクトマネジメントの標準
を作成するプロジェクトで、99年の活動開始以来これま
で3回のワークショップを開催しています。

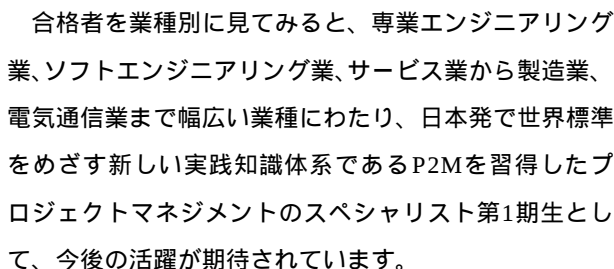


今回はP2Mを国際プロジェクトマネジメントの標準
に取り入れてもらう絶好の機会と考え、PMCCおよび日
本プロジェクトマネジメント・フォーラム（JPMF）が
共同スポンサーになり、日本で開催されました。北米・
欧州・豪州・アジアからの出席者は約40名でした。

これまでのPM標準は、単独プロジェクトの遂行に焦
点が当てられ、しかも西欧がその文化を基に標準を作っ
ただけでした。昨秋、日本からこれまでのPMの範
疇を大きく飛躍させ、単
独プロジェクト対象から、
戦略、さらにプログラム
構想、企業の価値創出に
まで踏み込んだP2Mが
発信された小原教授に大
きな敬意を表し、これをこれからのグローバルPM標準
に取り入れようとの大きなうねりが生じました。



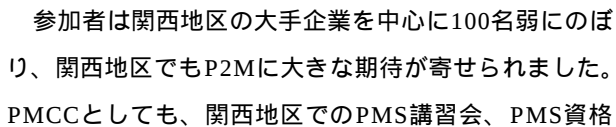
4日間の充実した討議の後、来年の米国での同会議に
参加を約束して会議を終えました。



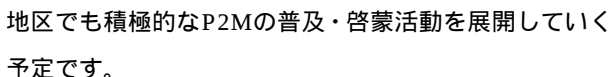
(日刊工業新聞 9月6日)

●PMS資格更新継続教育プログラム受講（別途ご案内）

- 9月9日（月）大阪府商工会議所において関西地区で初めて、有料の「P2Mセミナー」が開催されました。本セミナーは、『新しいPM - 「P2M」の展開について』というテーマで、PHP研究所とPMCCの共同主催により、「PHP経営革新セミナー」として実施されました。



トが切れました。今
後、本セミナーにご
出席を頂きました関
西地区の大手企業
のご協力を頂き、関西



日本計画行政学会でP2Mシンポジウム

9月22日(日)、つくば国際会議場において「日本計画行政学会 第25回全国大会」が開催されました。この



全国大会で、P2Mシンポジウムを実施。シンポジウムでは計画行政も、ものづくりから「仕組みづくり支援」への転換期を迎えている。P2Mの考え方にに基づき、

行政や産業ミドルは指示と調整が提携業務であったが、これからはグラスルーツから構想して孵化させる「非提携業務」が要求されると訴えました。

経済産業省で「P2M研修」を実施

経済産業省では、10月28日(月)～11月1日(金)の5日間、若手・中堅職員を中心に「P2M研修」が実施されました。研修の目的は、政策立案や行政事務の過程にプロジェクトマネジメント発想を適用していこうというものです。ある参加者は、「予算・納期・品質」を問われる仕事はこなしており、PMセンスはかなり高いものがあると思っているが、P2M研修で「的確な組織運営の方法論が得られた」と、その成果を話しています。

第2回 PMS講習会 受講生募集

平成14年度 第2回PMS講習会が、平成14年12月14日(土)～平成15年2月15日(土)の週末8日間、東京地区で実施されます。受講申込書の受付期間は、10月7日(月)～11月18日(月)。また、第2回PMS資格試験は平成15年3月16日(日)を予定しております。

本講習会は、厚生労働省教育訓練給付制度指定講座に認定されましたので、雇用保険加入期間等の条件を満足する受講修了者は、ハローワークに申請することにより、受講料の80%が給付されます。

PRポスターを準備

また、募集のPR活動の一環として、「P2M普及ポスター」と「PMS講習会受講生募集」の2種類のポスターを準備いたしましたので、積極的にご活用ください。



P2M 普及ポスター



PMS 講習会
受講生募集ポスター

会員企業紹介シリーズ 日本ユニシス株式会社様

競争力強化に向けP2Mに取り組む

現在日本ユニシス様では、これまでのハードウェア中心からソフトウェアやサービス中心の企業、すなわち「顧客価値創造企業」への変革を進めておられます。その中で「プロジェクトマネジャーの早期育成」というテーマがあり、P2Mに取り組まれました。

これまで、プロジェクトマネジメントのメソドロジーとしてはPMBOK

にも準拠する「TEAMmethod / プロジェクトマネジメント」を導入・適用しておられ、顧客情報システムの構築を中心に大きな成果をあげておられます。また、プロジェクトマネジャー育成に関連し、社内の技術認定制度の導入も行ってきたおられます。しかしながら、プロジェクトマネジメントの範囲を、「情報システムの構築」だけではなく、広く捉えようとするP2Mの概念も取り入れ、これまでの「TEAMmethod / プロジェクトマネジメント」の内容を拡充するため、P2Mへの取り組みを開始さ

れました。実際のビジネスでも、「e-ビジネス戦略作りから始めて情報システムの構築につなげるサービスの要請」が増加しており、こうしたサービスでの一層の競争力強化のためにP2Mに期待するものがあるとのこと。このような事を背景に、今回60名を超える社員がPMCC / PMSの試験を受験されました。

厳しいIT業界の中であって、「顧客価値創造企業」へ大きな変身を遂げられるためにP2Mが役立ってくれることを、PMCCとして多に願うものであります。

第2回 PMCC理事会 開催

PMCCでは、第2回理事会を11月6日（水）に開催いたします。本理事会では

PMCC会員状況および新規加入会員紹介

平成14年度上期 主要事業報告

平成14年度下期 主要アクティビティー

等の報告が行われる予定です。

PMCC広場

～ PMS資格試験合格者の一言 ～

定年を直前に控え、何を今更という気持ちもありましたが、PMS資格試験にチャレンジしました。400ページを超えるあの分厚いP2M標準ガイドブックを読みこなすのは、一苦労でしたが、久しぶりに受験勉強という緊張感のある一時を過ごしました。

P2M標準ガイドブックを熟読しての感想は、「P2M標準ガイドブックに盛り込まれたプロジェクトマネジメントの体系的知識は、企業人であれ、官公庁の職員であれ、プロフェッショナルな職業人にとって必須の知識である」の一言に尽きます。

昨今の我が国企業の不振をみると、経験と勘による我流のマネジメントのツケが廻ってきたような感を強くします。まさしく「木を見て森を見ず」の部分最適に終始し、全体的な視点のグランドデザインにかけていたのではないかと思います。それは政治や行政の世界にも言えることで、今の閉塞した状況から脱皮するための日本全体のグランドデザインという超大なプログラムマネジメントが求められているのかもしれません。

何はともあれ、若手からベテランにいたるまで、このP2M標準ガイドブックを手元におき、日常の業務の参考にしたらいかがでしょう。何かのヒントになるとと思います。最後に受験の結果ですが、おかげさまで何とか合格しました。

奥村 泰彦 様

P2M関連出版物



「P2M入門」

著 者：小原重信氏

発行所：株式会社エイチアンドアイ

定 価：本体1400円＋税

PM資格認定センター推奨図書



めざせ！P2Mプロジェクトマネジャー

著 者：PMCC プラネット・ワーキンググループ

発行所：日本能率協会マネジメントセンター

定 価：本体2200円＋税

プロジェクトマネジメントの歴史とその推移

今回からプロジェクトマネジメント(PM)発展の歴史とその活躍をお話しします。PMをよく知らない人でもプロジェクトとは何か最近の人は皆知っていると思いますが、簡単に説明します。私たちは日常行っている仕事をルーチンワークと呼んでいますが、これとは違い、ある目的を持ってまとまった仕事を処理するとき、通常の仕事仲間とは別に人々を集めて決められた時間内に、決められた予算内で、決められた内容の仕事を処理します。この処理すべきまとまった仕事をプロジェクトと呼んでいます。プロジェクトという言葉のない時代でも、概念としてのプロジェクトは存在しました。よく例に使われるのがピラミッドの建設です。

大勢の人を集めて、目的を達成するには、当然人々を指揮する人が必要となります。仕事を決められた時間通りに仕上げるには計画を立て、計画通りに仕事が進んでいるか調べ、遅れていれば原因を見つけ遅れを取り戻す作業をします。計画を立て、実行し、計画と実行の差を調べ、遅れを修正する行為をマネジメントと呼んでいます。

ピラミッド建設の時代は20年から30年に1回程度の仕事ですからマネジメント技術というものはありませんでした。しかし、プロジェクトが頻繁に発生する時代になると、決められた目標時間や予算内に納める要求が強くなり求められるようになります。ここでプロジェクトをうまくマネジメントする技法が発達してきました。

このコラムはプロジェクトマネジメントの概念が出始めた時期から始まり、その発展の歴史を時代的背景も含めてお話しします。次回以降をお楽しみにして下さい。(芝 安曇)

PMCC
News Letter
vol12
2002年11月発行

編集・発行 / 特定非営利活動法人 プロジェクトマネジメント資格認定センター
〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目4番6号 CYDビル2F
TEL : 03-3502-4405 (代表) FAX : 03-3539-1741